

令和5年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和5年4月13日（木）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 品川区立中延小学校

品川区立中延小学校

令和5年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
【国語】

(1) 各教科の定着状況についての概要

各学年目標数値から約4ポイント下回る。2, 3年生は特に説明文の読解に課題が見られた。4, 5, 6年生は「書くこと」に課題が見られ、基礎学力を応用するという点で、今後、学習したことを活用できるように指導する必要がある。

(2) 学年ごとの分析

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う

2年	具体的な課題		原因として考えられること
	言葉の特徴や使い方に関することに課題がみられる。 文章の読解に課題がみられる。		言葉や語彙を使う機会が少ない。長い文章の内容を読み取り理解する難しさがある。
	課題解決のための方策	日頃から教科書の意味調べをする時間をとり語彙力を高める。 読書時間に学年相応の本に触れる時間を設ける。	
3年	具体的な課題		原因として考えられること
	説明文を読んで理解することに課題がみられる。		文章全体を読んで大まかに文章の内容を捉えて理解する難しさがある。
	課題解決のための方策	大切なところを意識して叙述に線を引く時間を多く設け、文章全体で何が言いたいのか捉えられるようにする。	
4年	具体的な課題		原因として考えられること
	メモをもとに文章を書くことに、自分の考えで書くことに課題がみられる。		メモの内容や時間内など条件を満たして書くことに難しさがある。
	課題解決のための方策	定期的にテーマを決めて100マス作文に取り組むことで、さまざまな考えを引き出し、文章で表現できるようにする。	
5年	具体的な課題		原因として考えられること
	複数の条件をもとに文章を書くことに課題がみられる。		段落の構成を意識ながら、自分の考えを含んで書くことに難しさがある。
	課題解決のための方策	100マス作文では、事実や出来事と自分の考え、思ったことの2段落程度で文章構成を考え書くことができるようにする。	
6年	具体的な課題		原因として考えられること
	複数の条件をもとに文章を書くことに課題がみられる。		見通しをもって問題を進めることや、自分の考えを含んで書くことに難しさがある。
	課題解決のための方策	行事ごとに時系列を意識して行事の進行に合わせての自分の気持ちの変化を書くようにし、書くことへの意欲を高める。	

(3) 次年度の数値目標

全体的に基礎学力、5ポイント上げることを目指す。

「書くこと」の力については、学年に合わせたテーマや方法で100マス作文に取り組むことで向上を目指す。自分の考えを持って、発信していくことに抵抗をなくせるように、書くことにつながる文章の読み取り方や作文指導の充実を図る。

品川区立中延小学校

令和5年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組 【社会】

(1) 各教科の定着状況についての概要

4年生は、前年度の目標値を目指したが、今年度は目標値を12.6下回っており、観点別の定着も5以上目標値を下回る結果となった。5年生は、目標値・平均正答率全国平均と比較し、全体的に上回っており、達成率も5.5上回る結果となった。6年生は、目標値・平均正答率は、全国平均と比較し、全体的に上回っており、達成率も15.4上回る結果となった。

(2) 学年ごとの分析

4年	具体的な課題	原因として考えられること
	目標値・平均正答率・全国平均と比較し、全体的に下回っており、達成率も、9下回っている。	社会全体に苦手意識があり、基礎・基本の定着が身に付いていない可能性がある。
	課題解決のための方策	<p>まずは、社会が楽しいと思える教材を準備することが大切である。</p> <p>【実物教材や地域人材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会が楽しいと思えるために、児童に自分の生活との関係性をもたせるためにも、見学やゲストティーチャーの活用、実物に触れる体験をどの単元にも効果的に位置付ける。 <p>【資料読み取りの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期までに再度資料の確実な読み取りの方法を獲得させ、どの単元でも児童が切実性をもって学習に取り組める資料の提示方法を工夫して行うようにする。また、繰り返し発問を行い、考えを深める場面を必ず設けるようにする。
5年	具体的な課題	原因として考えられること
	どの領域でも目標値を上回っているが、領域別に見ると、「都道府県の様子」と「記述問題」に課題がある。	「都道府県の様子」では、都道府県の「位置と名称」を地図からの読み取ることができていない。また、どの領域でも「記述」する問題に課題がある。問題に手掛かりがあるのに対し、読み取れない傾向にある。
	課題解決のための方策	<p>【都道府県の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の5分間を利用して「地方・都道府県名・県庁所在地」など、年間を通した復習時間を設け、定着を図る。苦手な児童に配慮し、地方ごとに小テストを行うなど、スモールステップを踏みながら定着を図る。 <p>【記述問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の中で、大切な用語を押さえる。また、振り返りの時間には、必ずその用語を使って振り返りを書くことを意識させる。 ・学習内容が確実に定着するように、単元終了ごとに復習プリントをする。
6年	具体的な課題	原因として考えられること
	どの領域でも目標値を上回っているが、領域別に見ると、「世界の中の国土」と「日本の食料生産」に課題がある。	「世界の中の国土」では、世界の国の大陸の「位置と名称」を地球儀から読みとることができていない。「日本の食料生産」では、複数の抽象的資料から情報を正確に読み取り、グラフや表にまとめることに課題がある。
	課題解決のための方策	<p>【国土の位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業で、地図帳を活用する時間を設ける。また、モジュールの時間を活用して、日本地図や世界地図を使用しながら楽しく学べる活動を行う。 <p>【資料の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取ったことをグラフにまとめるという作業を学習活動の中に取り入れていく。

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

(3) 次年度の数値目標

前年度の結果を踏まえ、3年生は目標値68%を目指す。4年生は、プラス12%向上、5年生は、現状維持または3%向上を目指す。

品川区立中延小学校

令和5年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【算数】

(1) 各教科の定着状況についての概要

3, 4, 5, 6年生は、全国平均とほぼ同程度でおおむね良好な状況といえる。目標値は2ポイントから9ポイント上回っている。2年生は定着度の差があり、活用はおおむね良好な状況であった。領域で見ると「数と計算」での達成率は高く、3年間の研究の成果が見られる。反対に「図形」領域では、目標値に達してはいるが、他領域に比べて低い傾向が見られた。

(2) 学年ごとの分析

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

2年	具体的な課題		原因として考えられること
	「図形」「時計」 ひき算の問題作り		最後まで文章を読み解くことが難しく、複雑な問題への経験不足の傾向が見られる。
	課題解決のための方策	絵や図、操作活動、言葉、立式が結び付く活動を取り入れる。問題文が長文であっても、最後まで読むことを定着させる。定着が伴わない児童の個別指導を進める。	
3年	具体的な課題		原因として考えられること
	かけ算のいろいろな場面での立式 図形の名称		文章量が多い場合、時間内に終わることが難しい。算数用語を正確に覚えていない。
	課題解決のための方策	かけ算の場面でのいろいろなパターンに取り組みさせる。算数用語の掲示物の工夫も考えられる。時間設定をして問題解決を行う。	
4年	具体的な課題		原因として考えられること
	「単位の換算」mmとmの関係 あまりのあるわり算の文章題		長さの単位mm、cm、mの関係、商とあまりの関係の理解が不十分と考えられる。
	課題解決のための方策	体験的活動から量感を培うと共に、段階を追って計算する過程を大切にする。あまりのあるわり算では、具体的操作を通して商と余りの関係を理解できるようにする。	
5年	具体的な課題		原因として考えられること
	「分数」の仕組み 作図		1を分け、分数で表すことやコンパスを使った作図に苦手傾向が見られる。
	課題解決のための方策	分数を数直線で表す。図形の作図活動を多く取り入れる。選択肢を選ぶ際、問題を丁寧に読む。	
6年	具体的な課題		原因として考えられること
	記述問題		問題解決において、式、図、言葉に関連付けたり、お互いの考えを交流したりする時間が少ないことが考えられる。
	課題解決のための方策	問題の中から情報を読み取り、考察する活動を増やす。	

(3) 次年度の数値目標

各学年、目標値を5ポイント以上上回るようにする。また、図形領域のポイントを上げる。

品川区立中延小学校

令和5年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
【理科】

(1) 各教科の定着状況についての概要

4年生は、前年度の目標値を目指したが、今年度は目標値を14.4下回っており、観点別の定着も目標値を下回る結果となった。5年生は、活用において7.1上回ったが、目標値・平均正答率・全国平均と比較し、全体的に下回っており、達成率は3.7下回る結果となった。6年生は、目標値・平均正答率は、全国平均と比較し、全体的に上回っており、達成率も15.1上回る結果となった。

(2) 学年ごとの分析

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

4 年	具体的な課題	原因として考えられること
	「植物の育ち方」と「物の重さ」に課題がある。また、領域別に見ると、「生命・地球」、観点「知識・技能」に課題がある。また、記述問題に課題がある。	原因として、理科全体に苦手意識があり、基礎・基本の定着が不十分であることが考えられる。記述が苦手。また、文章の読み取りが苦手であったり、時間内に問題を解き終えることが難しかったりする現状がある。
	課題解決のための方策	
	<p>【基礎学力の定着】 学習内容が確実に定着するように、単元終了ごとに宿題としての理科プリントを出す。また、難しい用語に慣れるため、副読本を何度も音読する。</p> <p>【時間を意識する】 問題を解く前に問題を全部見る習慣を付ける。また、問題に取り組む際に時間を意識して取り組めるよう工夫する。</p>	
5 年	具体的な課題	原因として考えられること
	領域別に見ると、「物質・エネルギー」と「生命・地球」に課題がある。	物のあたたまり方では、予想や結果が正しいかを推測するといった力が不十分であると考えられる。1年間の動物のようすでは、生き物のようすとあたたかさを関連付けて考えていくことが難しいことが考えられる。
	課題解決のための方策	
	<p>【物質・エネルギー】 学習後の振り返りを活用して、予想や結果を関連付けて考えさせる場面を設ける。書くことが苦手な児童に配慮し、書き方の例を示すなど、スモールステップを踏みながら、事象を比較したり関連付けたりして考察できるようにする。</p> <p>【生命・地球】 児童が実物教材を通して学習できるようにする。また、教材に興味関心をもった児童が一層追究できるように図書館司書と連携しながら生き物に関連した本を精選してもらうようにする。</p>	
6 年	具体的な課題	原因として考えられること
	「植物の花のつくりと実」「植物の発芽と成長」に課題がある。	仮説検証をするための考えが不十分であると考えられる。また、実験器具の使い方や用語が押さえられていない現状がある。
	課題解決のための方策	
	<p>【問題解決の力の育成】 根拠のある予想を基に、観察・実験を行い、自ら発想した予想と得られた結果を比較して考察する活動を繰り返し行うことで問題解決の力を養う。</p> <p>【既習知識の確認】顕微鏡の使い方や、花のつくりなど既習事項を扱う学習の際は、単元の導入に必ず確認をし、押さえてから学習活動に取り組む。</p>	

(3) 次年度の数値目標

前年度の結果を踏まえ、3年生は目標値62%を目指す。4年生は、プラス10%向上、5年生は、プラス5%向上を目指す。

品川区立中延小学校

令和5年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組 【英語】

(1) 各教科の定着状況についての概要

目標値・平均正答率は、全国平均と比較し、全体的に上回っており、達成率も9.5を上回る結果となった。

(2) 学年ごとの分析

6年	具体的な課題	原因として考えられること
	どの領域でも目標値を上回っているが、領域別に見ると、「アルファベットの読み（聞く）」に課題がある。	問題形式が今までのテストでは、「聞き取ったアルファベットを正確に書く」ことだったのに対し、今回は「聞き取ったアルファベットを三択から選ぶ」だった。また、これまでのテストと比較し、考える時間が設けられておらずそのまま問題が続けられたことから、発音の聞き間違いが起きたと考えられる。
	課題解決のための方策	【アルファベットの読み（聞く）】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発音を聞くことを意識させる声掛けをする。これにより、見本と自分の発音とを比較して適切な聞き取りができるようになると思う。 ・授業の中で、「どのアルファベットを発音しているのか」など、クイズ形式で取り組ませるなど、英語に対しての抵抗感を減らしていく。

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

(3) 次年度の数値目標

第5学年は、今年度の目標値76.8を目指す。